

弔 辞

今、私どもは、大きな悲しみの中にあります。

「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」

自然の悠久の中では、人の命のはかなさ、人生の無常を定めとして受け止めなければいけないものとはいえ、多くの皆さんの驚愕の中、家族の皆様願ひも叶わず、非情な別れとなってしまいました。

突然の病魔の発症は、何事にも動じないあなたと精神力と、屈強な体力を確信していた私どもにとっては驚天動地の心境でありますし、短時間に集約され急襲する病魔との壮絶な激闘は、想像を絶する苦悩であつたらうと思ひます。

落涙をこらえ、いかんともしがたい無力を悲しみつつ、感謝と敬意の気持ちを込めて、謹んで哀悼の真を捧げます。

私にとってのあなたとの本格的な付き合いは、社会教育担当の際の、芸術文化・スポーツを愛する会の創設から始まったと思っております。

平成八年、議会議務局に配属、爾来、約二十年間にわたってその任務を全うすることとなりました。

その間、「開かれた議会」を目指した改革の中心的な役割を果たしてきたことは、全国に周知されているところでもあります。

・平成十一年、新しい議会体制がスタート、西川事務局長の入院のため、悪戦苦闘したこと。

・「気が付いたことから」「できることから」を合言葉に、きつい抵抗を受けながら、次々と改革に取り組んできたこと。

・「議会改革の集大成」として、「議会基本条例」を制定。情報を収集、積み上げてきた改革の実績を組み込み、修正・校正を繰り返し、完成させた自前の条例は、地方自治、議会に厳しい、西尾 勝先生からも「栗山町議会基本条例をさらに前進・進化させた福島町議会基本条例は、最先端を走っている」と称賛されたこと。

・マニフェスト大賞授賞式で、初めて感動の涙を見

せたこと。北川先生と三人で写った写真は、少し誇らしげでした。

・マニフェスト大賞、四回の受賞、全国町村議長会特別表彰受賞後は、視察に来町する議会も、道内から沖縄まで、全国二百八十を超え対応が大変だったこと。

・全国町村議長会、北海道町村議長会、国際文化アカデミー、議会改革フォーラムなどへの講演、パネルラーとして奔走したこと。等々、思い出は尽きません。

あなたの民間企業で培った判断力と行動力は、「行政・議会の常識」の不条理に挑む力となり、「町民・民間目線」で議会・議員を変えていく原動力となったものと思っております。

移り行く変遷の中で、立場は違っても折に触れて町の明日を思い、口角泡を飛ばし、夢を語り合い、激論を交わしたことも蘇ります。

議会を離れても、不安な報道ばかりで、心配して

いたと思いますが、あなたの鍛えた議会、あなたが支えてきた福島町議会は、厳しい状況の中で、今、「実感できる政策提言から条例提案へ」を目標に積極的な活動を展開しております。

廣瀬先生の年賀状に、「十年一日のような問題が繰り返し浮上しているように思われますが、恩師からいただいた『良くしようと思えるのは思い上がり。何とかして今より悪くならないように必死で考えよ』という言葉を改めて思い起こしています。」と書いておりました。現状は、あなたも承知の通りで、肝に銘じて進めていきたいと思っております。

再会を楽しみにしていた、神原先生、佐藤淳先生、江藤先生、ガバナンスの千葉編集長、朝日新聞の神田さん、芽室の西銘さん等々、驚愕、悲嘆の電話、メールがはいっております。

結びになりますが、あいちゃん、たかし君、そして小夏ちゃん、あなたがたのお父さん、おじいちゃん、多くの皆さんの模範となる立派な方であるこ

とをおじさんが証明します。誇りに思ってください。
機会があれば、もっともっとお話をしてあげたい
と思っております。

もう一つ、溝部家の子供や孫たちも、あなたが大好きでした。いつもかわいがってくれて、有難うございました。

そして、私自身も、議会のみならず、パソコン、畑の耕作等々、公私ともにお世話になり本当に有難うございました。

御生前の雄姿を偲び、痛恨惜別の御最後を顧みますとき、万感胸に迫りご遺族のお悲しみを慰める術も知りません。

幽冥境を異にしますが、どうか家族の皆様を見守り続けていただきたいと思います。

石堂さん、ご苦勞様でした。

ひたすら御生前の御功德をたたえ、安らかな御冥福をお祈り申し上げ、ご遺族の皆様のご多幸を心からご祈念し、弔辞といたします。

平成二十九年一月十九日

福島町議会

議長 溝部 幸基